

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500072		
法人名	吉村商工 有限会社		
事業所名	グループホーム 風の丘		
所在地	宮崎県小林市南西方1992-14		
自己評価作成日	平成30年8月22日	評価結果市町村受理日	平成30年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4590500072-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4590500072-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年9月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が理念を理解し入居者に寄り添い、その人の意思を尊重し、その人らしく日常生活が送れるよう、援助を行っている。十分なケアを行うため、早期に医療機関へ相談できる体制を作っている。地域の方や家族の方に差し入れて頂いた食材で、入居者の知恵と協力の元、一緒に楽しみながら料理や漬物、おやつ作りを行っている。終末期に対し、入院よりも施設で過ごして欲しいとの家族の要望が多く、協力医との連携の下、看取りもさせて頂いており、家族や医師、看護師と連携を密にとり、最期までその方らしく穏やかに家族と暮らし慣れた居家で過ごして頂けるように環境の整備を行いながらその時を迎えて頂けるように配慮している。家族からは穏やかに一緒に過ごすことができ幸せだったとの声も頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、閑静な住宅地の中にあり、関連のクリニック、住宅型有料老人ホーム、デイサービス等と連携して運営している。管理者は地域密着型サービスの意義を踏まえて、行政が行う町づくり推進会議への参加や各種行事等に参加して交流を深めている。また、看取りについては利用者や家族の要望に基づき、医者や職員、家族、関係者と方針を共有して取り組んでいる。介護計画も本人や家族と十分話し合い、職員の気づきや意見を取り入れた利用者本位の計画を作成して実践に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社の企業理念を日々の朝礼で唱和することを継続することで日々の実践につなげている。また、月毎の介護努力目標を廊下に掲げ目に見えることで理念と共に共有している。	法人の理念を基に、職員全員で話し合い作成した介護目標を毎日の朝礼や職員会議で確認し、笑顔で優しい心のこもったケアの実現に全員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時又は屋外での入居者とのコミュニケーション時に近隣の方々とのお話を大切にしている。又、外部での活動にも積極的に参加している。	管理者は、行政が行う町づくり推進会議への参加や各種行事に積極的に参加して地域との交流を深めている。また、地域ボランティアの受け入れや、中学生の職場体験の受け入れ等、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板に「風の丘だより」を定期的に発信し、情報提供を行うことで認知症への理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、取り組んでいる情報やヒヤリハット等の報告も行いながら委員の方々の助言や提案を頂いている。	運営推進会議は行政の担当者や地域の消防団等、多様なメンバーで構成されている。会議では夜間想定避難訓練に対する意見や地域の行事の情報等意見や助言が多く出され運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも市の担当者と密に連絡をとり、様々な事案に対しての相談をしながら適切なアドバイスを頂いて業務改善に努めている。	市の担当者とは運営推進会議の他に運営上の課題や介護保険の疑問点等について指導や助言を受けている。また、管理者は行政が行う事業に積極的に参加して協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をすることで、全職員が知識を向上させ、自身の親だったらという意識の下、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の研修や勉強会に参加して身体拘束の弊害を学び理解を深め、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お世話をさせて頂く精神で援助する側、される側の心理状態が行動への対応に表れるとの理解力を高めることが大切である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、生活保護の方が1名入居されている。成年後見人制度の利用を関係者と検討していたが活用までには至っていない。しかし今後も必要性を見極め検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、家族や本人の不安や疑問、意向を確認しながら理解、納得して頂いた上で契約を行っている。法改定の際にも説明を行い理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に意見を聞ける雰囲気作りは整ってきているが、直接意見箱へ家族が書きやすいように検討する必要がある。苦情などある場合、どう解決していくか、公開方法も考える。	運営推進会議に家族の代表が参加して、意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族の来訪時やホームの行事開催時に本人や家族の意見を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が管理者を通じて、意見や要望を聞く機会を設け反映させている。	職員会議や朝のミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。特に管理者は職員の家庭環境を大事にし、無理のないシフトで働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自分の家庭を第一に考えるように」と代表者が常日頃より言っており、職員個別の状況を理解し、要望等を聞きながらその都度可能な範囲で対応し、個人個人が無理のないシフトで働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ハウ・レン・ソウを仕事の基本として情報共有したり、研修への参加も行っている。全員参加は難しいが、研修に参加できなかった職員は研修ノートを参照してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型で作る連絡協議会の勉強会や研修会に参加する機会を設けており、他施設との意見交換や交流を図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった際に本人や家族にホームへ見学に来て頂き、ホームの雰囲気を感じて頂くようにしている。入居までの間に本人や家族から情報収集を行い、入居後も不安の無い生活が送れるように働きかけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後も不安や要望がないか本人や家族の声が聞けるよう、家族へは面会時に時間を設け、話しやすい雰囲気作りを心掛け良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望聞き、また入居前に関わりのあったサービス機関や医療機関と情報交換を行いながら、日常生活の中で必要な支援を見極め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々に対し、その人が好んで出来ることを見つけ出し無理にではなくやる気を出させる工夫を見出しながら生活を共にしている。本人に対し大切なあなたであることを知って頂くように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、面会時は一緒に過ごす時間を大切に、家族と外出、外泊が可能な方には協力を頂き、家族と過ごして頂いている。また、何気ない会話の中で不満、不安を探り、お互いに居心地のよい環境作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺や馴染みの場所へドライブなどを行い身を乗り出して景観を思い出し楽しんで頂く時間を設けている。また居室には馴染みの物を自宅より持って来て頂き、安心できる環境作りを心掛けている。	利用者の自宅周辺へのドライブやスーパーでの買物、美容室等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、知人、友人、家族等が出来るだけ多く来訪してもらえるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	天候などを見ながら木陰を利用してコミュニケーションを行いながら気分転換を図っている。また定期的に席替えを行い利用者同士が関わりやすいように環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族と会う機会があった際には、近況のことや不安なことなど話を聞きながら相談や支援を行っている。また入院中は、できる限り面会へ行き症状や状態を確認している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とスキシップを図りながら居心地はどうか様子を聞いたりしている。意思疎通の難しい方は日常の関わりの中で表情等を汲み取り、家族へ話を聞きながら把握できるように努めている。不自由なこと、問題点があれば即、検討している。	日々の生活の中で利用者との会話や表情、行動等から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)の一部を活用して、多くの情報を収集し、家族や関係者からの情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族よりこれまでの暮らしについて情報収集を行い、これまでの生活環境の把握に努めている。また、今まで利用された医療機関やサービス機関からも情報を提供して頂き、支援の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の過ごし方や心身の状態を把握し生活支援を行っている。申し送りや介護記録、個人記録を活用しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話連絡などで家族の意向を確認しながら意見や要望を汲み取り、また職員の意見も取り入れ定期的に評価を行いながら介護計画書を作成している。	本人や家族の要望を取り入れ、職員や関係者の意見や提案を反映した利用者本位の介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の様子を個別記録に記入しており、気付いた点については申し送りや業務日誌などを活用し職員間の情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の要望に合わせ、他事業所との連携を図りながらその時々での最善の方法で要望に応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、地域の方との交流は表情が良く会話が弾むきっかけとなっており豊かな暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の医師との連携を密に取っており、不安な点など医師や看護師に対し相談できる環境作りができています。また、必要に応じ医師より家族へ連絡もして下さっており適切な医療を受けられる体制作りも整えている。	ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、週2回の往診や定期的な健康診断も行っている。また、急変時の対応についても連携が充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を図っており、定期的な来訪により日頃の入居者の状態の報告を行うことで入居者の変化にいち早く気付くことができている。また主治医との連絡もスムーズにでき不安なことの相談が看護師へいつでもできる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを利用し情報提供を行っている。入院中にもできる限り面会へ行き、病院関係者や家族より情報を収集できるようにしている。退院後も医療関係者との連絡を密に取り、情報交換を行いながら相談できる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と看取りについて推進しており、入居時に本人や家族の終末期への意思確認書の整備を行っている。終末期に向けて医師や看護師と密に連携を図り本人や家族が安心して、穏やかに考えられる終末期に近づけるように体制を強化している。	重度化や終末期のあり方については、利用開始時に指針を説明し同意を得ている。本人や家族と充分話し合い理解を深めており、医師や職員、関係者と方針を共有して前向きに取り組んでいる。看取りの実績も多くある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、全職員が把握できるようにしている。また、定期的な救急講習会を利用し、急変時や事故発生時の対応について確認ができる環境を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練として、消火訓練と共に防災士による水害、地震、噴火に伴う災害時の講話を聞き学ぶ機会を設けている。夜間でもすぐに駆けつけられるように緊急連絡網を作成し体制を整えている。	消防署の協力を得て、年2回の災害避難訓練を実施している。食料、飲料水等の備蓄もしている。ただ、地域との協力体制が十分とは言えない。	特に夜間に災害が発生した場合は、職員だけの対応では限界があるので、地域住民や地元消防団等との協力体制の構築が必要であり、検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その人に応じた方言や馴染みの言葉を使いながら対応している。またその言葉を聞いた他の方が不安にならないように言葉使いや対応には十分に配慮を行っている。	利用者の人格を尊重し、利用者一人ひとりに寄り添った言葉かけや名前の呼び方等に配慮している。特にトイレへの誘導や入浴時には利用者の尊厳を傷つけないケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や表情を観察しながら声掛けを行い、できるだけ自己決定ができるように働きかけている。難聴の方には、必要に応じて筆談で対応し、本人の思いが聞けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムに合わせ、無理強いをしない支援を心掛け、本人の希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室を利用されている方もおり、買い物やドライブなどの外出時等の服装は本人に選んで頂いている。施設へ定期的に理容師の来訪があり施設にて髪を切って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で採れた野菜で漬け物を一緒に作ったり、普段の食事では盛り付けを一緒に行っている。鍋会の時などは、入居者に野菜切りや味付け、味見をして頂き、鍋を囲み会話を楽しみながら職員も一緒に食べている。漬け物や旬の物を食べる際にも一緒に食べ感想や作り方など話しながら楽しい時間を過ごしている。	利用者の好みを取り入れ、旬の食材を使った食事を提供している。また、菜園で収穫した野菜で漬物を利用者と一緒を作り、おやつとして食べるなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。食事の準備や後片付けを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎回記録し、水分制限のある方には配慮しながら調整している。健康状態に合わせて食事形態を工夫し、嫌いな食べ物については代替えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア、舌みがきを行っている。自分でできる方については見守りと確認をしており、食事前には「あ・い・う・べー」「パタカラ」体操を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の活用を活かしながら、さらに声掛け誘導を行う。習慣づけることも下肢筋力のおとろえさせない為、時間をかけながら自立支援を行っている。	排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、出来るだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールがスムーズに行くよう、水分を一日1,500ml以上を目標に工夫しながら摂取を勧めたり、食事をゆっくり食べる、かかと上げ、つまさき上げ、歩行などの軽い運動を日常に取り入れる等の工夫を行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の気持ちを考慮し大切にしている。季節に応じてユズ風呂を用意したり入浴を楽しんで頂けるようにしている。	入浴は本人の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。また、入浴が楽しめるよう、季節に合わせてユズ風呂を用意したりしている。入浴を拒む人には、日時を変更したり、タイミングよい声掛けをする等工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて室内、室温の温度調整を行いながらいつでもくつろいで頂けるように畳やソファを置いて休息できる環境作りをしている。また足枕を利用したり、肌触りのよい物を使用したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	関わるスタッフが入居者と一緒に名前、日付を声に出して確認している。入居者が飲み込むまで見守り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	盛り付け、体操時の号令を個々に合わせてして頂いているが年齢と共に短時間となってきている。アルバムの整理は写真を見ながら会話したり笑ったりと息抜きをしながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に沿って外出を心掛けている。近くのスーパーを利用し、自身で品定めをし支払いをすることで今まで以上の気分転換ができてきている。希望を持つことで生活機能を高めることにも繋がっている。	天気の良い日には、近隣を散歩したり、自宅周辺をドライブしたりしている。また、家族の協力を得て買い物や外食、花見等、出来るだけ戸外に多く出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方で各自の出納帳の管理を行っているが入居者個人で小口現金を所持されている方もいる。買い物に行った際には本人が支払いできるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればすぐに対応している。また家族から電話があった際にはゆっくり会話をしして頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の気温、湿度をみて入居者の体調、活動状況などみて室温調整をしている。天窓には直射日光があたらないようにしている。	採光や湿温、換気等利用者が快適に生活できるように配慮されている。共用空間には畳スペースがあり、テーブルには季節の花が飾られる等、利用者が季節感を感じながら、ゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自然と集まるコーナーがあり、話をしたり、洗濯物を畳んだり、昼寝をしたりと思いい思いに過ごせる場所ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に関わらず本人、家族、職員で本人が過ごしやすく自宅と同じように穏やかに過ごせる部屋作りを一緒に行っている。家族の写真や自分で作られた作品を飾り安心して過ごして頂けるように工夫している。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。使い慣れた家具や仏壇、テレビ、家族の写真等を持ち込み、安心して生活が出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人一人の状況に合わせている。動線上に物がないように配慮したり各箇所に手すりを設置したりとできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。また、居室の入口には本人の似顔絵を掲示している。		